

瀬堀（松村）紗里さんへの インタビュー



【紹介】

小学生時代を含めて現在も狛江市に在住。小学校教諭。7月下旬に三人目のお子さんの出産があり、文書でのインタビューとなりました。大変な中を答えていただいたことに深く感謝いたします。

Q 1 : 平和作文を書いた頃の思い出は

A : 確か学校で作文を出す決まりになっていたような気がします。自分の意思ではなく、担任の先生に言われて、全員書くという感じでした。

戦争と平和がテーマの映画を見に行ったり、原爆の恐ろしさについて母からいろいろな話を聞いていたり、わりと家族の会話の中に戦争、平和が身近にあったのですぐに取り掛かることができました。

優秀作に選ばれて、びっくりしましたが、素直に嬉しく思いました。記念の冊子と立派な賞状が未だに実家に飾ってあるので、記憶に残っています。写真を撮る時は、授業中だったような。自分だけ授業をぬけたことで、ちょっと特別感があって嬉しかったのを覚えています。

(今作文を読んでみて) 私の職業柄、この字は漢字で書かなきゃ、とか内容チグハグだけど大丈夫? って思いました。当時の私は、「はだしのゲン」を何度も読んでいました。ダイレクトに戦争の恐ろしさが伝わってきて、もしおきたら大変だと感じていたと思います。

Q 2 : 作文の終わりに「平和のためにできる、どんな小さなことでも、努力していきたい」とありますが、その後は。

A : 小学校時代は5月のメーデーに、両親と毎年参加してい

ました。何が正しいことか、何が危険なことかを自分でしっかり判断することの大切さと行動する大切さを学びに行っていたように思います。

しかし残念ながら、中学、高校時代に深く平和について考えることはありませんでした。

大人になり、小学校で子供達と触れ合う中で、さらに我が子が産まれてからは、国内や海外の出来事に敏感になりました。特に原発事故については、今現在も深く考えさせられています。

Q 3 : 2月にウクライナへのロシアの侵略戦争が始まり、今も続いています。改めて平和への思いは？

A : 一人の力では戦争をとめることや世の中を動かすことは難しいかもしれません。

できることは何かないかなーとか、相手の立場に立って思いを巡らせたり、想像したりするだけでも、日々の生活が変わってくるのかなと思います。

人と人との関わりの中で、自分の考えを相手にしっかり伝えることや対話を丁寧に積み重ねることも大切だと感じています。